



## 「急速に普及する全電化住宅」 ～住まいの快適性をより高める次世代住宅～

すでにご存知のように、給湯・調理・暖房などにご家庭で使われるエネルギーのすべてを電気でまかなうのが全電化住宅。新築の住宅着工戸数が伸び悩む中、全電化住宅の占める割合が以前に比べて非常に高くなっており、関西電力管内では、10年前に比べて約11倍になっています(図1)。

そこで今回は、なぜ今、全電化住宅が増えているのかを見てみました。

その背景には、

- ①高齢者に配慮した住まいの安全性へのニーズの高まり
- ②資源・環境保全を考えた省エネや省コストへのニーズの高まり
- ③オール電化に関連する商品の登場

が考えられます

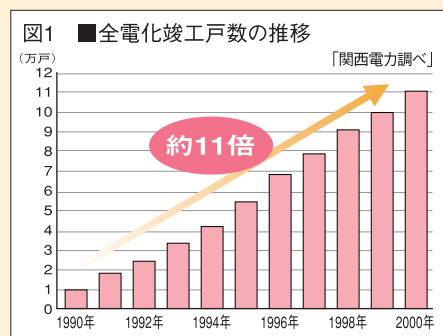
### ●全電化住宅に適した人気商品

ユーザーのライフスタイル・ニーズにマッチした商品が、全電化住宅普及の牽引役を果たしています。1つは、火を使わない安全性、お手入れのしやすさなどが高い支持を集めている「IHクッキングヒーター」。もう1つは、安全性・エネルギー効率に優れたCO<sub>2</sub>冷媒ヒートポンプ給湯機「エコキュート」です。

また、各電力会社が提案している「全電化住宅向け深夜電力を活用した特別割引料金プラン」、各保険会社が設定している電化住宅や電化リフォームに対応する「火災保険の割引制度」など、ユーザーへの経済的メリットもオール電化住宅普及を強力に後押ししています。

### ●生活者のニーズに応える全電化住宅

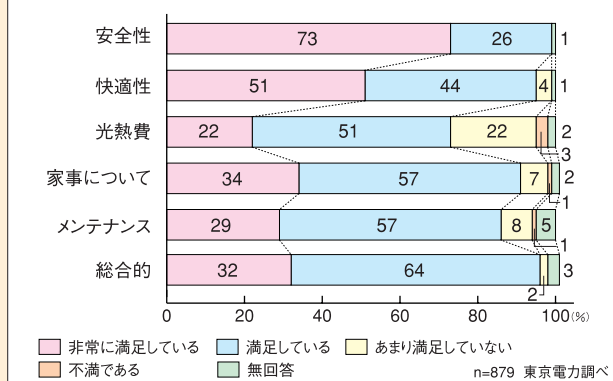
ユーザーから全電化が支持される理由は、全電化住宅に住むユーザーのうち、96%が総合的に満足していることからわかります(図2)。火を使わない安全性、光熱費の削減、家事の省力化など、オール電化住宅が提供できる利点によって、ユーザーが求めている生活を実現できるという点が多くの方に評価されているようです。今後、全電化住宅をおすすめすることは、お客様にとって非常に魅力的なご提案となることが期待できます。



ちなみに、最近、家庭用電化製品等について、電磁波の健康への影響を耳にすることがあります。これに関しては、世界保健機関(WHO)や資源エネルギー庁での検討・評価によるといずれも「居住環境における電磁界が健康に有害である証拠は認められていない」と結論づけられています<sup>注</sup>。どこにでもあるような家電製品(ヘアードライヤー、掃除機)やIHクッキングヒーターから発生する電磁波は健康に影響がないと考えられています。

注 世界保健機関「環境保健基準69」(昭和62年)、資源エネルギー庁「電磁界影響に関する調査・検討報告書」(平成5年)

図2 ■全電化一戸建て住宅のユーザー評価



(まとめ:株式会社ロスコー・アールディ研究所)

## くうきのはなし

### 1/10,000の変化が人類の運命を左右する

産業活動によって排出されるガスのうち、地球温暖化の原因として有力視されているものは、二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、CFCとHCFCなど6種類。なかでも温暖化への直接的寄与が93.7%と飛び抜けて大きいのが二酸化炭素です。

この二酸化炭素、大気中にどの程度の割合で含まれているかご存じですか。1995年の環境省の発表によると、体積比で358ppm。0.036%にすぎません。「大騒ぎしている

割には、ずいぶん少ないじゃないか」と思われた方もいらっしゃるのでは。しかし、南極の氷の中から採取した昔の空気を分析したところ、人類が化石燃料を盛んに使い始めた産業革命以前の二酸化炭素濃度は0.028%。つまり、わずか1/10,000の増加が、深刻な温暖化を引き起こしているわけです。省エネの意味を、しっかりと考え直してみたいものです。